

動画解説まとめ 15 / AI活用

AI自動化の作り方と、 使いたくなるサービスへの変え方

SUZURIの出品ツールを例に、AIで自動化を作る手順とAPIの役割を解説。大量出品から利用者のためのサービスへ発想を変え、試作と収益の検討を分けて学びます。

この動画の要点

AIにツールを作らせる方法と、そのツールを誰にどう使ってもらうかを解説した動画のまとめです。SUZURIへの文字デザイン自動出品、AI画像生成を組み込んだ出品、顔写真からデザインを提案する試作が登場します。制作時にAIを使うことと、運用中もAIを呼び出すことを分け、APIの費用・キー、ブラウザ操作AIによる構築、利用者の需要から考えるサービス設計を整理します。実演した試作と収益化の構想は、販売実績とは区別しています。

- 01 最初に仕組みを作る作業は必要。受託業務の効率化と、自分で運営する自動化ツールは分けて考える。
- 02 AIで作ったツールでも、運用中にAIを使うものと使わないものがある。画像生成などを組み込むとAPIの費用が関係する。
- 03 作りたいものを会話AIに相談し、ブラウザ操作AIへ渡す指示に整理して構築を進める。
- 04 大量に出品できることと、利用者が欲しいことは別。人が求めた時に役立つサービスへ発想を変える。
- 05 無料の試作で反応を見て、収入と運用費を比較しながら改善する。動画のデモ自体に販売実績が示されているわけではない。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：AI×自動化の仕組みづくり

<https://www.youtube.com/watch?v=PPqzxOrGUjQ>

動画でいう不労所得と、扱う自動化の範囲

動画の該当箇所 3:04 / タップして開く

あべさんはこの動画で、最初に仕組みを構築する作業は必要で、その後の作業を減らして収入を得る形を『不労所得』として説明しています。構築前から何もしなくてよいという意味ではありません。また、構築後に更新が要らないという説明は本人が置いた定義であり、実際の保守作業や将来の収益が不要・確実になることを確認したものではありません。

AIで稼ぐ自動化を、受託した仕事をAIに進めてもらう形と、自分で運営するツールを作る形に分けています。受託の場合は、記事の納品前などに人の確認が必要で、顧客との連絡も残ります。そのため今回の主題は、受託を完全に放置する方法ではなく、自分の仕組みを作る方法です。

さらに、誰かが作ったツールを使う方法と、自分で作る方法を比較しています。同じツールを多くの人が使っていると競争が増えるため、完成品をそのまま使って稼ぐことより、考え方を参考に自分の用途を作ることが勧められています。

- ・ 受託の効率化では、確認や顧客対応が残る。
- ・ 今回の実演は、自分の用途に合わせて自動化を作る練習。
- ・ 紹介されたツールを使うだけで収益が発生するという資料ではない。

制作時だけAIを使うツールと、運用中にもAIを使うツール

動画の該当箇所 11:08 / タップして開く

最初の例は、SUZURIへ文字デザインを自動出品するツールです。『猫』『カレー』『眠い』などの言葉、『好き』『最高』などの言葉、記号の候補をあらかじめ用意し、ランダムに組み合わせることで画像と商品を作ります。動画では『眠い最高』『推しが好き』という文字のTシャツが出品される様子を見せています。

このツールはAIを使って制作していますが、動作するたびにAIへデザインを考えさせているわけではありません。決めておいた候補を組み合わせる仕組みです。ただしSUZURIへ出品するための連携はあり、『内部でAIを使わない』ことと『外部サービスを一切使わない』ことは同じではありません。

次の例は、画像生成AIを呼び出し、作ったイラストをSUZURIへ出品するツールです。空を飛ぶ虹色のクジラなどが生成されます。制作時にAIを使うだけでなく、運用中にもAIを呼び出すため、その呼び出しの費用が検討事項になります。どちらも仕組みを理解するための実演で、デザインの販売成果は示されていません。

- ・ 候補の組み合わせ型：決められたデータから処理する。
- ・ AI組み込み型：動作の途中で画像生成などをAIへ依頼する。
- ・ 技術的に出品できたことと、買いたい商品になったことを分ける。

APIの役割、利用料、APIキーを理解する

動画の該当箇所 16:18 / タップして開く

APIは、この動画では『自分のツールが外部の機能呼び出す窓口』として説明されています。人がAIの画面で会話する代わりに、作ったツールが画像生成などを依頼するための接点です。AI以外にも、SUZURIに商品を出品するためのAPIが話題になります。

画像生成を組み込む場合は、利用回数や使うサービスに応じた費用がかかります。動画の実演では無料で使えるものを選んでいますが、あべさんは画像の品質が十分でないという説明をしています。有料のものに変える案も出ますが、費用が高ければ必ずよいという一般則や、紹介された無料枠が現在も同じという保証にはできません。

APIキーは、利用する人やツールを識別するための秘密情報として扱われています。漏れると他人の利用料金を負担したり、自分のアカウントで望まない出品をされたりするおそれがあるという説明です。動画では、必要なページへの案内と設定位置の説明をAIに頼み、キーの発行と入力とは自分で行う方法を取っています。

また、利用上限を設定する話もあります。ただし、上限に達したら必ず自動停止するかなどの具体的な挙動は、この資料ではサービスごとに確認していません。APIを組み込む時は、料金と上限の仕組みを未確認のまま決めつけないことが必要です。

- ・ ツールを作るための費用と、動かすたびに発生する費用を分ける。
- ・ APIキーの値を、会話文や共有資料へ載せない。
- ・ 動画内の無料枠・料金上限の説明を、現在の全サービス共通の仕様として使わない。

会話で仕様を整理し、ブラウザ操作AIで構築する

動画の該当箇所 18:44 / タップして開く

実演ではGoogle Chromeに、ブラウザを操作するAIの拡張機能『Claude in Chrome』を入れています。そのうえで、作りたいツールのイメージをChatGPTなどの会話AIへ伝え、Claude in Chromeへ送る指示文を作らせています。自分で長い開発指示を最初から書くのではなく、指示の作成にもAIを使う流れです。

SUZURIへの自動出品を例に、『こういうツールを作りたいので、ブラウザを操作するAIへの指示を作ってほしい』という趣旨で相談します。次に、その指示をClaude in Chromeへ渡し、GASを使って構築するように依頼しています。GASはGoogle Apps Scriptで、動画ではコードを置いて実行する場所として紹介されています。

出された作業計画を承認し、AIがブラウザを操作してコードを用意の様子を見せています。AI画像生成を組み込む場合も基本の流れは同じで、追加で利用するAPIや必要なキーの準備を進めます。動画には確認を省く設定への言及もありますが、確認を外すことが構築の必須手順ではありません。

エラーが出る場合もあると説明され、修正依頼用のプロンプトが特典として案内されています。ただし、その特典の全文は字幕から取得できないため、この資料では原文プロンプトが揃っているかのように扱いません。

- ・ 作りたいものを会話AIに伝える。
- ・ ブラウザ操作AI向けの指示文へ整理する。

- ・ 構築方針を確認して作業を進め、必要な認証情報は自分で設定する。

大量出品の限界を、利用者と運営側の視点で考える

動画の該当箇所 29:08 / タップして開く

あべさんは、SUZURIの自動出品を仕組みの練習には使えても、それだけで大きな収益を長く得るのは難しいと説明します。似たものを作る人が増えると差がつきにくなり、価格で比較されやすくなるからです。動画では、この状態をガソリンスタンドの価格比較にたとえています。

もう一つの論点は、利用するプラットフォームのルールです。技術的に大量出品できても、その運用が受け入れられるとは限りません。実演中も、画像生成と出品が繰り返される処理を途中で止めています。動画に出てくるSUZURIやYouTubeの規約説明は、最新の公式ルールを確認した結論ではなく、あべさんが動画内で説明した内容です。

ここから『ユーザーにとって役に立つ自動化を考える』という方向へ話が進みます。作り手が大量に供給する都合だけでなく、利用者が何を欲しがり、どの場面で使うかを考えるということです。好まれる内容であること自体が規約適合を保証するわけではありませんが、サービスを考える視点として提示されています。

- ・ 同じものを大量に作れることだけを強みにしない。
- ・ 他社サービスの上で動く仕組みは、そのサービスの条件に影響される。
- ・ 『何を自動化できるか』から『誰が何のために使うか』へ問いを変える。

写真を起点に、欲しいデザインを作るサービスへ変える

動画の該当箇所 34:25 / タップして開く

次の実演では、SUZURIのAPIで作れるサービス案をAIに相談しています。自分の技術経験が会話AIとブラウザ操作AIを使える程度であること、利用者にもプラットフォームにも歓迎されるものにしたいことを条件として伝えています。候補として、写真やロゴをアップロードするとグッズ化する案、ペットの写真から思い出のグッズを作る案が出ています。

あべさんが試作したのは、顔写真をアップロードすると、その人に合うデザインを生成するTシャツのサービスです。写真を選ぶ、AIがデザインを作る、気に入ったら出品ボタンを押す、SUZURI上で購入できる、という流れを実演しています。本人も無料のAPIによる品質はまだ十分ではないと話しており、販売できた実績を報告している場面ではありません。

前の大量出品型との違いは、利用者が写真を送り、デザインを気に入った時に出品する点です。利用者にとって試してみたい体験を作り、購入へつながった場合に収入が生まれる構想です。配布ツールそのものより、この発想の転換を参考にしてほしいと伝えています。

- ・ 材料：利用者が選ぶ写真やロゴ。
- ・ 処理：AIがデザインを提案する。
- ・ 選択：利用者が気に入ったデザインを選ぶ。
- ・ 活用：グッズとして出品し、購入につなぐ。

小さく試し、収入と運用費を見ながら改善する

動画の該当箇所 38:14 / タップして開く

収益化の案として、SUZURIで商品が売れた時の取り分、生成回数を増やせる有料プラン、サイトへの広告掲載、ツールの売却などが挙げられています。1日3枚まで無料にし、より多く作りたい人に有料プランを案内する例も出ますが、これは料金設計の例であり、実施済みの契約条件ではありません。

あべさんは、最初から複雑な課金機能を作るより、まず無料で試して反応を見て、受けそうなら力を入れる順番を勧めています。画像生成もまず小さく試し、有料のAPIへ変えた結果、増えた収入が利用料に見合うかを見て調整する考え方です。

後半の雑談では、改善するともっと伸びるかもしれないため、作業を減らす目的で始めても改善を続けたいという本人の体験が語られます。自動化を作ることと、事業を拡大し続けることは別の判断です。どこまで改善し、どこで区切るかも含めて考えるという話で締めくくられています。

- ・ 無料の試作で利用者の反応を見る。
- ・ 反応があれば品質や機能を改善する。
- ・ 収入とAPI利用料を比較し、運用方法を調整する。
- ・ 試作・収益化案・実際の売上を混同しない。

実践の進め方

01 まず自動化する処理を一つ決める

文字の組み合わせで画像を作って出品する例のように、入力から結果までの流れを決めます。運用中にAIを呼び出す必要があるかも分けて考えます。

動画 11:08

02 構築用の指示を会話AIに作ってもらう

作りたいツールと、Claude in Chromeに構築を任せたいことを伝えます。動画では会話AIに指示文を作らせ、その指示をブラウザ操作AIへ渡しています。

動画 21:09

03 ブラウザ操作AIで構築を進める

動画ではGASを使った構築を依頼し、提示された計画を承認しています。APIが必要ならサービスの候補や設定ページを確認し、秘密のキーの入力は自分で行います。

動画 21:45

04 利用者が欲しくなる形をAIと相談する

自分の技術経験と、利用者・プラットフォームに歓迎されるものにしたい条件を伝えます。動画では大量出品の練習から、写真を送ってデザインを選べるサービスへ案を変えています。

動画 34:25

05 試作の流れを動かして確認する

写真を選び、デザインを生成し、気に入ったものを出品するという流れを実演しています。処理が動くことと、商品として欲しい品質になったことを分けて見ます。

動画 36:29

06 反応を見てから品質や課金を検討する

まず無料で試し、受けそうなら有料APIや追加機能を検討する順番です。収入が運用費に見合うかを比較し、必要に応じて調整します。

動画 39:21

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部による活用例。動画内の逐語プロンプトではありません】この資料を根拠に、記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進める。まず解決したい利用者の困り事、使えるサービス、私の経験、試作に使える時間と費用を確認してください。回答後に、入力→処理→完成物→利用者の次の行動を整理し、運用中にAIが必要な部分を区別してください。動画の考え方に沿って小さく試せる案と構築用の指示案を作り、資料にない操作・料金・利用条件は確認事項として示してください。APIキーの値を私に送らず、試作が動いたことを売上実績と呼ばないでください。

資料について

- ・ YouTubeの日本語自動字幕を基に、挨拶・宣伝・繰り返しを省いて編集した要約です。タイムスタンプは参照箇所の開始位置です。
- ・ 顔写真からTシャツを作るサービスなどは動画内の試作・構想です。販売実績や継続収入が確認された完成事業として紹介していません。
- ・ 無料枠、APIの料金上限・自動停止、拡張機能の利用条件、各プラットフォームの規約は動画時点の説明です。最新仕様を外部で検証していません。
- ・ 不労所得、利益、売却額などの表現は登壇者の定義・見解・可能性の話であり、費用・保守作業の不要や成果を保証しません。
- ・ 字幕で特定しきれないモデル名や配布プロンプトの全文は推測で補完していません。AIへの活用例は編集部が作成したものです。